

広島とつながってお話するのはほんと、いつも



13.7.22 宮城 岩沼 仮設住宅集会所 広島のお姉さんお兄ちゃんに楽しい。子ども笑顔が未来への希望！カンダー後11月



12.1.22 宮城県仙台市 社会福祉協議会前 素朴な願いが胸を締め付ける 震災から1年4ヶ月。「あたりまえ」ではない生活がある



12.7.22 宮城県仙台市開港 津波の被災地を歩く 流されたお寺の基所にお地蔵さんが残る とれた首が置かれていた

「東日本大震災/宮城ばいばい」2022 遠藤和美さん3(つづき)

Q5、これからの目標や生きがい

まずは今の仕事を65歳ぐらいまで続けるのが目標です。生きがいは孫たちの成長を見ることです。1番目は大学1年生で、2番目は高校を卒業して、3番目は中学2年生。そんな子ども(孫)たちに、時にアドバイスができるようなおばあちゃんになりたいなと思っています。

Q6、わたしたち若者へのメッセージ

生きていることは当たり前ではない。いのちは、生きているのではなく「生かされている」。感謝の心を忘れないでほしいです。この世に生まれてくるということは当たり前ではなく、奇跡だからね。自らのいのちを絶つという事件に接したら、親の悲しみも、本人の辛さも重く伝わってきます。どうしても人間は、生きていたら、我慢しなければならない時がある。だから、そんな時に、相談できる人とか、心から話せるような人を一人、二人つくってほしい。何かあった時に本当に心許せる仲間との出会いがあって、そんな人がみなさんのそばにいてくれたらいいなと思っています。



2013年7月



2013年7月



2013年7月

東日本大震災、私にはもう3年ではなく、津波で最愛の夫を奪われ、まだ